

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年11月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

目次

I 管内の農業・農村の主な動き

II 主な普及指導活動等の取組

1 総合プロジェクトに関する普及活動

- （1）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成
- （2）北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり
- （3）地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築
- （4）農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成

2 専門プロジェクトに関する普及活動

- （1）高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化
- （2）高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成
- （3）生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成
- （4）産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成

III プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

北諸県地域の普及活動（普及活動月報）

令和7年11月

北諸県農林振興局

（北諸県農業改良普及センター）

I 管内の農業・農村の主な動き

（1）水稻種子農産物検査開始

25日、JAみやざき都城地区本部の石山倉庫で、水稻種子の農産物検査が始まりました。今回の検査では、西岳で生産された「ヒノヒカリ」約2,000袋が検査を受け、全量合格となりました。検査に合格した種子は、県内各地へ配布され、来年の種子として利用されます。



（検査を受ける種子）

（2）北諸県普及事業推進協議会幹事会及び都城盆地農業経営指導士会の研修会の開催

14日、鹿児島県の南九州畜産獣医学拠点及び大規模畑作経営を視察しました。南九州畜産獣医学拠点は、産業獣医師を育成する拠点施設で、全国の獣医学科から研修生を受け入れ、現在は宿泊施設としても運営し、地域のコミュニティの拠点となっている事例でした。また、大規模畑作経営は、かんしょの生産から加工品の販売への取組とキャベツ等を中心とした畑かん利用における地域の利用率を高めるための優良事例でした。経営指導士からも大変勉強になったと意見をいただき、有意義な研修になりました。



（大規模畑作経営の研修）

II 主な普及指導活動等の取組

1 総合プロジェクトに関する普及活動

（1）北諸県地域を支える多様なアグリプレイヤーの確保・育成

1）就農相談を実施

管内で就農を希望している7名（施設野菜1名、露地野菜2名、露地野菜＋水稻1名、肉用牛繁殖2名、水稻1名）について、就農相談会を開催しました。うち5名については、今後の栽培面積や、事業の利用等を勘案しながら、就農計画の作成支援を行いました。

引き続き、地域の大切な担い手につながるよう支援していきます。

2) J A研修事業による新規就農希望者に対する本審査会

6日、本年8月よりJ Aの研修事業により、管内のきゅうり生産者の元で研修を行っている3名の研修生について、体験研修期間の3箇月が経過し、本審査会が行われました。最初に受入農家から研修生の様子を聞き、その後、研修生の面接が行われました。3名の研修生とも受入農家の評価も高く、本人の意欲も旺盛で、全員合格となりました。

3) みやざき就農応援相談会に出展

9日、宮崎市においてみやざき就農応援相談会が開催され、都城市・J A・普及センターで出展しました。ブースには、都城市で就農を希望される方が2組来られ、北諸県地域での就農に向けた支援体制や就農品目等についての相談がありました。

今回相談のあった方に対しては、引き続き情報提供を行い支援を行うほか、今後とも、新規就農者の確保に向けて取り組んでいきます。

4) 新規就農者・新規就農希望者に関する情報共有会（第3回）

13日、市町、J A、普及センターの担当者による情報共有会を行い、青年等就農計画の作成支援状況や、今後の新規就農予定者の状況等について情報を共有しました。また、新規就農者の負担軽減のための中古ハウスの情報収集方法や、新規就農者が将来の経営を見据えて青年等就農計画を作成できるようにするための、作成支援ツール、及び視察研修の実施について検討を行いました。

今後も関係機関と連携して、支援を行っていきます。

5) 新規就農者支援強化に向けた事例調査を実施

19日、新規就農者支援の強化に向け、北諸県地域農業人材確保定着支援部会で児湯地域の新規就農者支援事例に係る調査を実施しました。児湯地域では、関係機関が連携し、就農希望者への体系的な研修や経営計画の作成支援を実施するほか、就農後の経営安定に向けた支援の仕組みを構築されていました。参加者からは学び多い調査であったとの意見が聞かれており、今回調査した事例を参考に、北諸県地域での新規就農者支援の強化につなげていきます。

(2) 北諸県地域の持続可能な肉用牛産地づくり

1) 子牛セリ市場での営農相談窓口設置

17日、子牛セリ市会場に、営農相談コーナーを設置しました。受付会場に訪れる生産者から、飼料用稲の給与方法や冬場の飼養管理について相談を受け助言を行いました。今後も、農業者の多く集まる子牛セリ市で営農相談活動を行っていきます。

2) 関係機関（NOSAI）と連携した巡回指導

4、5、13、14、25、28 日、NOSAI みやぎの獣医師と連携し、重点対象農家 4 件の巡回指導を行いました。NOSAI 獣医師による超音波装置を用いたフレッシュチェック（分娩後の卵巣等の機能回復確認）や妊娠鑑定等を行い、普及センターからは、寒冷対策についての助言を行いました。今後も関係機関一体となって、生産性向上に向けた支援を行っていきます。

（3）地域を牽引する集落営農法人の育成による収益性の高い北諸県農業の構築

1) 集落営農推進部会事務局員会の開催

18 日、集落営農推進部会の事務局員会が開催され集落営農状況調査の結果が報告されました。管内の集落営農組織が減少傾向にあることや高齢化で役員のなり手が不足していることなど、現状について関係機関で情報を共有しました。

あた、普及センターからは沖水地区での技術継承に向けた経営ビジョンや作業手順書の作成支援の取組状況について報告を行いました。

（4）農地と水を活用した魅力ある大規模畑作経営体の育成

1) 畑かん営農推進に向けた担当者会の開催

25 日に担当者会を開催し、散水器具の導入推進及び貸し出し状況等について情報共有しました。また、農村計画課畑かん営農推進担当も参加し、畑地かんがい営農推進プランについて説明がありました。今後も関係機関で協力しながら、畑かん営農の推進に取り組めます。

2) キャベツほ場巡回

20 日、大手餃子メーカーとの契約ほ場を関係機関・生産者で巡回しました。

管内では餃子メーカー向けに約 25ha の作付けがありますが、各ほ場において栽培技術や品種選定について積極的に意見交換が行われました。

今後も生産者との連携を密にし、作付面積の拡大を目指していきます。



（意見交換の様子）

3) 畑かん展示は設置

19 日、大規模法人のほうれんそう播種予定ほ場において、ロールカーやレインガンを使用し、畑かん水で基礎水を散水する試験を実施しました。今回は散水にかかる時間を計測しましたが、今後、生育中にも散水を行いながら、収量等への影響を調査し、散水の効果や課題を抽出します。



(試験内容を説明している様子)



(ロールカーでの散水状況)

2 専門プロジェクトに関する普及活動

(1) 高品質茶生産、コスト低減による茶業経営の安定化

1) 北諸県地区茶業青年会販促活動 (Karada Good Miyazaki フェスタ 2025)

2 日、JA AZM にて Karada Good Miyazaki フェスタ 2025 が開催され、みやざき茶推進会議及び北諸県地区茶業青年会が出展しました。

北諸県地区茶業青年会のブースでは各生産者が栽培・製造したシングルオリジン茶（きらり 31、暖心 37、おくゆたか、おくみどり、さえみどり）を急須で淹れ、茶の機能性や品種の特徴を伝えながら試飲を振る舞った他、上記に「やぶきた」を加えた 6 品種セットの販売 PR を行いました。

秋寒を感じる今日、温かいお茶は非常に好評で、「家で急須で淹れて飲んでみようと思います。」と言われる方も多数見受けられました。



(試飲茶を振る舞う様子)



(品種の特徴を伝える様子)

(2) 高い生産性を実現する施設きゅうり産地の育成

1) 環境制御研究会 室内勉強会を実施

17日、環境制御研究会の室内勉強会を実施しました。当日は「ミライズ」を用いて、早朝加温やCO₂施用の実施状況を確認しながら、今後の管理方針について活発な意見交換が行われました。

また、データ活用の強化に向けて生育調査の方針を整理し、今年度は新たに硝酸態窒素のリアルタイム診断を実施することになりました。

これから厳寒期を迎え、ハウス内の環境制御がより重要になります。環境・生育・出荷データを総合的に活用し、収量向上を目指します。



(モニターでデータを確認)

2) 令和7年度みやざきデータ駆動型農業実践研修会が開催

20日、環境制御研究会メンバー2戸のきゅうりほ場にて、栽培コンサルタントによる現地指導研修が行われました。

研修は、生産者から出された疑問や課題をもとに、講師が管理方法を助言する形式で進められました。葉の枚数やかん水量など、日頃の感覚と異なる指摘も多く、生産者にとって新たな視点を得る良い機会となったようです。

研修翌日には、「さっそく管理を見直した」との前向きな声も聞かれました。



(講師と意見を交わす生産者)



(生育を見ながら意見交換)

3) JA みやざき都城地区本部施設きゅうり専門部会 南部支部講習会が開催

27日、中郷集荷所にて、部会南部支部の講習会が開催されました。普及センターからは、管内の優良生産者の事例を示しながら、病害抑制に向けた早朝加温や送風運転のポイントについて指導を行いました。

今回は、生産者が出荷するタイミングにあわせて、集荷場で短時間の講習を行う方式で実施しました。この方法は「参加しやすい」との声が多く、今後も継続することになりました。



(南部支部講習会)

(3) 生産者が描く未来ビジョンを達成できるいちご産地の育成

1) JA みやざき都城地区本部いちご専門部会 全体現地検討会の実施

10日、JA いちご専門部会員のほ場において現地検討会が開催されました。土耕栽培と高設栽培の2戸の園地で実施し、近隣の生産者がお互いに管理の意見交換を行いました。また、JA いちご担当指導員からは、日の入りが1時間ほど早くなり冷え込みが強まるため、保温による成長速度の維持を指導していました。

普及センター及び試験場からは、今夏に実施した営農振興協議会展示ほのうち、高温対策としての効果に期待のあったポット資材（紙ポット、白ポット、ひなたエアポット）の検討について調査報告を行いました。



(土耕栽培の園地)



(高設栽培の園地)

2) JA みやざき都城地区本部いちご専門部会 全員検討会の実施

26日、都城地区本部本所会議室にて、全員検討会が開催されました。普及センターからは直近の病虫害発生状況と気象予報の解説を行いました。

また、アリスタライフサイエンスの担当者から、促成いちご栽培における天敵及びクロマルハナバチの利用方法と適正管理について講義が行われ、利用している生産者と熱心な質疑が交わされました。

2) JA みやざき都城地区本部いちご専門部会 目揃え会の実施

20 日、JA 園芸課会議室にて目揃え会が開催されました。都城地区本部産のいちごは、毎日出荷日に検査員と生産者 1 名が検品を行い、他の地区より厳しい基準で出荷することで市場から高く評価されています。今後も高評価を維持し単価向上につなげていくため、各生産者が熱心にパック詰めの方法や着色基準を確認していました。

また、県域部会となったことで、運送日数の他産地との統一など、物流能の効率化についても議論されました。



(着色と等階級基準を確認)



(等級分け後のいちごサンプル)

(3) 産地ぐるみでブランド化に取り組むへべす産地の育成

1) へべすの全戸巡回を実施

18 日および 25 日、厳寒期前の最後の生育状況と栽培管理確認として、管内 16 戸のへべす生産者ほ場を JA 営農指導員とともに巡回しました。

生育と病害虫の状況、1 ヶ月前の巡回で助言した栽培管理の内容ができているか確認し、厳寒期前に取り組んでほしい管理を改めて説明しました。

また、主に山林に面した園地でゴマダラカミキリ幼虫の食害により樹勢が弱っている株が散見されたため、高濃度樹幹散布が可能な農薬による防除を助言しました。



(ゴマダラカミキリ幼虫食害)



(食害され樹勢が落ちた株)



(今後の管理の検討)

2) 宮崎県営農振興協議会へべす剪定講習会が開催

26日、都城市庄内町にて、県内のへべす産地のJA営農指導員、普及指導員が参加し、標記講習会が開催されました。

JA庄内支店で行われた室内講習では、総合農業試験場専技センターの黒木専技から安定生産を目指す上での課題、特に「かいよう病対策」について解説、試験場果樹部の山名主任研究員から省力栽培技術として「垣根仕立て」や「トリマー剪定」が紹介されました。

現地へべすほ場では、慣行の開心自然形を目指した剪定方法とトリマー剪定のデモンストレーションと各自実践演習が行われました。

講習会で得た知見を、今後の剪定時期の指導に活かしていく予定です。



(室内講習会)



(専技による剪定デモンストレーション)



(各指導員トリマー剪定体験)

III プロジェクト以外の普及活動（一般活動）

(1) プチヴェール現地検討会

21日、JA営農指導員とともに現地検討会を実施しました。今回はミニトマト生産者御夫妻に加え、トマト生産者も出席しました。

普及センターからは、トマトキバガが県内で増加傾向との情報提供と、果実への被害事例の提示を行いました。また、トマト黄化葉巻病対策として、タバココナジラミの対策を説明しました。

その後、生育を確認しながら、互いに管理状況について情報交換しました。



(包装資材の変更を確認)



(黄色ホリバーの設置)



(普及センターから説明)

(2) 都城市果樹振興会視察研修の開催

21 日、都城市果樹振興会の生産者 10 戸 14 名が、南那珂地域にて視察研修を行いました。会員のほとんどは露地果樹品目を栽培しており高温対策が喫緊の課題となっています。

日南市では、極早生うんしゅうみかんの高温対策方法として「カルシウム剤の散布」や「天なり果の摘除」等について南那珂の普及指導員、JA みやざきはまゆう地区本部営農指導員、園主から説明を受けました。

また、亜熱帯作物支場では、近年の温暖化に対応した亜熱帯性果樹品目の試験研究状況について紹介がありました。

いずれも今後の管理や品目選定に役立つ内容であり、会員は積極的に質問し、説明を熱心に聞いていました。

(3) 都城市特別融資制度推進会議の開催

22 日、都城市特別融資制度推進会議が開催されました。今月は計 3 件（近代化 1 号資金 2 件、青年等就農資金 1 件）の申請があり、書類審査の結果、2 件が承認、1 件が継続審議となりました。